

2024年度 JASSO 協定派遣「工学系グローバル
人材育成派遣プログラム」の派遣学生募集について

国際交流センター

日本学生支援機構による公募型支援採択プログラム「工学系グローバル人材育成派遣プログラム」により、学術交流協定校へ派遣する学生を以下のとおり募集します。

(1. 募集人数と派遣期間)

募集人数：2名

派遣期間：2024年4月1日から2025年3月31日までの間に派遣先大学で留学を開始し、6カ月以上1年まで。

(2. 支援対象となる条件)

○派遣先が学生交流に関する協定を締結している大学（研究機関も可）であること。

○履修科目の一部等として実施されるもので、帰国後に単位認定されること。

(3. 対象学生)

2024年4月1日時点で博士前期課程1年及び2年、学部4年の日本人学生

日本人学生（外国人留学生は不可）

語学力：TOEIC 590点以上

学業成績：2023年度（大学院生は学部時の成績）の成績評価係数が2.30以上（3.00満点）

人物：留学計画を最後までやり抜ける人。基本的なマナーの良い人。

(4. 申請にあたり指導教員へ依頼すること)

○希望する学術交流協定校の派遣先指導教員と連絡を取り、派遣留学受入について了承を得る。

○応募書類の研究計画作成について指導する。

○応募書類のうち、指導教員の推薦所見を作成する。

(5. 支援内容)

①JASSO 支給奨学金（給付型）：

甲地域（ドイツ、フィンランド、フランス、オーストリア等）月額8万円支給

乙地域（タイ、ロシア、タイ、韓国等）月額7万円支給

丙地域（中国、インド、台湾等）月額6万円支給

②JASSO 渡航支援金：

渡航に関する必要な経費（航空券代、ビザ発行手数料、スーツケース購入代等）を支援。

※国の予算採択状況により本支援金を支給できない場合があります。

※下記(A)及び(B)の両方に該当する場合、(A)のみが支給対象となります。

(A)支給金額 国・地域問わず 16万円

世帯の所得金額が次の基準を満たす学生が対象です。

給与所得のみの世帯：年間収入金額（税込）が300万円以下

給与所得以外の所得を含む世帯：年間所得金額（必要経費等控除後）200万円以下

※上記所得金額の計算方法は、国際交流センター（h-kokuko@muroran-it.ac.jp）

までお問い合わせください。

(B)支給金額 国・地域問わず 13万円

※奨学金支給回数が6回以上を満たす学生が対象です。

③室蘭工業大学渡航支援金：

往復航空券代金を支援金として支給 上限額 13万円

※予算の都合に本支援金を支給できない場合があります。

※本支援金を受給する場合、②の JASSO 渡航支援金を受給しないこと。

(6. 応募方法)

①募集締切：2025年1月8日(水) 17:00

②次のオンライン申込みフォームから応募ください。

<https://kokusai.muroran-it.ac.jp/course/view.php?id=43#section-2>

(7. 選抜及び決定方法)

応募受付け後、本学国際交流委員会委員が英語で面接を行う予定です。

(8. 過去の派遣実績)

2019年度派遣実績 3名：

①MC1年、1年間ドイツへ派遣、修論研究を派遣先の大学で行った。

②MC2年、6カ月間中国へ派遣、修論研究を派遣先の大学で行った。

③MC2年、6カ月間中国へ派遣、修論研究を派遣先の大学で行った。

2020年度及び2021年度派遣実績 0名：

新型コロナウイルス感染症の影響で派遣実績無し。

2022年度派遣実績 2名：

①MC2年、1年間フランスへ派遣、修論研究を派遣先の大学で行った。

②学部4年、1年間ドイツへ派遣、卒業研究を派遣先の大学で行った。

2023年度派遣実績 1名：

①MC2年、10カ月間ベトナムへ派遣、修論研究を派遣先の大学で行った。

(9. その他)

①応募者が渡航する時点で、渡航国・地域に関する外務省「海外安全ホームページ」の危険情報及び感染症危険情報がレベル1以下であることを条件とします。

②提出書類の情報は、派遣者選考、奨学金選考、海外危機管理サービス及び海外旅行保険の加入手続き、派遣先本学学術交流協定校の出願手続き、派遣留学の円滑な実施及び派遣留学終了後の報告会や説明会等の為にのみ使用し、その他の目的には使用しません。

<工学系グローバル人材育成派遣プログラム概要>

【採択されたプログラムの目的・達成目標】

1. 語学力・コミュニケーション能力の向上：

英語圏でない国で、多様な人材との交流を体験し、コミュニケーションへの積極的参加の必要性を実感させ、自ら努力する。

2. 多様性への適応：

異文化の研究室で実験・研究を行うことで、研究の進め方の違いを体験し、日本の研究レベルを確認し、帰国後の研究モチベーションを高める。

3. 主体性・積極性：

困難なことが多い異国で、新しい人間関係の構築、自ら情報収集し、アポイントを取って、現地企業・研究機関・大学いずれか1か所を訪問する。

4. 達成：

以上のことを達成できた自分に自信を持ち、国際社会における技術者/研究者としてのキャリア意識を明確にする。

プログラムの流れ

【準備期間 3～6か月】

(1) 派遣先の決定と研究活動計画

※指導教員と受入先指導教員との間で本学学生の派遣について了解していること。

○派遣学生、指導教員、受入先指導教員で、現地での研究活動計画を作成する。

(2) 派遣学生による事前準備

○専門分野の英語に慣れておく。(受入先研究室の研究に関する主要英語論文を読む、音声の出る辞書等でひたすら調べる。)

○英語による日常会話・コミュニケーション向上のための英語学習を行う。

○現地企業・研究機関・大学を訪問コンタクトのための英語によるビジネスEメールの書き方、訪問先でのあいさつの仕方などの英語学習を行う。

【派遣期間中】

(学習及び研究)

○語学授業(英語、派遣先言語)を受講

○受入を許可された研究室で研究計画に基づいて研究

(人的交流)

○研究室メンバーとのコミュニケーション

○研究室の休日アクティビティに参加

○協定校の留学生用宿舎に入居することで多国籍の学生と交流

○地域コミュニティの活動に参加

○室蘭と室工大の素晴らしさを伝道

(課題)

○現地企業、研究機関、大学訪問情報収集

○自ら情報収集し、訪問申込み手続き、訪問